

府内で給与されている稲発酵粗飼料の実態調査を実施

府内の稲発酵粗飼料(稲 WCS)生産は平成12年頃から始まり、令和4年には生産面積が124.8haまで拡大しています。また、購入粗飼料価格が高止まりしている中、粗飼料としての重要性はさらに増すものと考えられます。しかし、稲 WCSは品種や収穫する熟期が様々であり、それによって栄養価も変化する可能性があることから、実態調査を行いました。

府内で給与されている稲 WCS 25 検体(乳用牛 11 検体、肉用繁殖牛 14 検体)について栄養成分や発酵品質を調査したところ、食用品種と飼料用品種との間には含まれる栄養成分や発酵品質に大きな違いはないが、収穫時の熟期が早いとタンパク質含量が増加することが確認できました。

今後はこの実態調査の結果を生かした稲 WCS の早期収穫を目指したタスクチーム活動や乳牛への給与試験を行う予定です。



写真上 稲 WCS の収穫・調製、下 調査に供した稲 WCS